

府中市生涯学習審議会（平成21年度第7回） 会議録

1 日 時 平成22年1月25日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中市役所北庁舎3階第3階会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員15名

加藤 佑子、西勝 義恵、坂本 明美、澤井 幸子、設楽 厚子、芝 喜久子、  
白井 紀子、鈴木 映子、寺谷 弘王、奈良 覚、野本 京子、平形 芳郎、  
比留間 一磨、三宅 昭、山内 啓司

（2）職員4名

齋田文化スポーツ部次長(兼)生涯学習スポーツ課長  
山村生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、市ノ川企画係長、大木

（3）傍聴1名

高橋 成忠

4 開会

5 連絡・報告事項

（1）傍聴について

（2）配布資料の確認

（3）報告事項

第47回東京都公民館研究大会について

12月13日（日）小金井市開催。内容について、参加した、芝会長、坂本委員、設楽委員、三宅委員、山内委員より報告をいただく。

「インターネットの活用と広域連携」というテーマで白熱した議論が行われていた。府中市は公民館というものが文化センターの中にインテグレートされていて、一般の認識では府中市には公民館はないので、どこの話かなと思いながら聞いていた。

私は第3課題別集会の「仲間づくりで元気な町を」というテーマで受けさせていただいた。助言者には、東京農工大学教授の朝岡幸彦さんで、お世話になった先生でしたので、親しく会話をしながら参加させていただいた。ほとんどが、公民館職員等が参加していて、以前、府中でも公民館講座をやっていた内容でやったが、その中でもシルバーの人材を活かしたシルバー大学で26回制の実例を入れて話されたことと、野菜づくりで活性化しているということも話していた。野菜づくりでは、東京の野菜ということでこだわっていて、それも職員の熱意によるものだと思った。府中市の場合は今、公民館講座が少ないので、西府文化センターの近くにいい

るが、そういう知識の講座が減少しているように感じられる。学習センターから派遣されて、そういう企画が文化センターでできないか議論をしたい。施設的には小金井というところは恵まれていないが、内容は活発に活動している。とても良い研修を受けさせていただいた。

府中から3人同じ分科会にいたので、ワークショップの中身はそれぞれ違い、講師の先生は同じだが、内容はいわゆる「公民館のIT化」ということで、情報をお互いにホームページを作って情報を公開するという方法でいくという打合せの中で、各グループに分かれた。府中市の場合は、文化センターの中に公民館は入っているの、特に公民館という考え方がなく、公民館講座というのが、市民の方が意識しているのかという別の問題がある。そういう形でホームページを作り、情報交換するというのは、非常に有意義なことであると感じた。

同じところで同じ話を聞いてきたが、私は、生涯学習であっても学習団体であってもネットワークの動きが大きくなっている。自分のところだけでなく、民間の文化団体からの情報、都内からの情報をお互いに利用できれば、講師を紹介してもらおう等のネットワークを作っていこうという一つの動きがある。例えば、府中にもコミュニティサイトがあるが、上手く活用すれば色々な情報が取れ、良い方向に進んでいくと思う。市の公民館で、お互いにそういう形にもっていきたいという一つの考えがあると思う。私たちのグループでもそういうことをやっていかなければと常々思っているの、いろいろな提案が得られたので良かったと思う。

私は第一分科会で「公民館の可能性を探る」というテーマで、そこで発表したのが、小金井市の公民館企画実行委員の方で、公民館運営審議委員とは別に、公民館企画実行委員制度があるそうで、年間の事業の計画をして、それを実行に移せるような形をとっている。それはかなり昔から、昭和28年から公民館設立と同時に始まっているとのことでしたので、かなり古くからそういう制度を持ってやっている。企画実行委員に応募したり、各館6名で30名の任期2年でやっている。しかし、メンバーが動かずに高齢化してきているという悩みを言っていた。その委員に自分でなるといっているので、その学ぶ姿勢がすごいと思った。絶えず毎日が自分をそちらに向けているらしく、どこかで良い講座があると聞けば行って、それを持ち帰るなど一生懸命努力している方たちがいるのだということを知ってきた。

コミュニティサイトはみなさんご存知でしょうか。コミュニティサイトはホームページで外部のプログラムを使って、ホームページのパターンができていて、その中に中身を入れると、それが発信される。府中市の市民活動支援課でNPO関係の団体に対する支援でやっている。

東京都もあるのか。

これは府中だけです。

## 6 審議事項

### (1) 前回の議事録の確認について

各委員に校正を依頼した会議録(案)は、市民に公開することが了承された。

### (2) 中間答申(案)について

事務局より説明。小委員会で作成した中間答申(案)を読み上げ、委員の皆さんの意見をまとめ、事務局の方で追記することになった。

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨]                   : 委員       ➡ : 事務局

小委員会の方、ありがとうございました。比留間副会長が小委員会の委員長として3回行っていただいた。その経緯をお話していただきたいので、お願いします。

それでは、小委員会について報告する。年末年始の忙しい中、小委員会に出席していただき、ありがとうございました。みなさんのお手元にある、11ページの資料に今までの定例会でた意見等をまとめたものを作りました。特に、三宅委員と坂本委員はご苦労されまして、箇条書きのものをここまで文章化するのは大変だろうと思う。今日は事務局の方で項目ごとに読んでもらい、意見や修正をしていきたいと思う。今日でなくても結構なので、また次回になっても仕方ないと思うので、良い答申書を作りたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。初めて、お配りするので、こういう風に直した方が良い等、浮かばないと思うが、それはまた後日、訂正して3月に答申ができるようにしたいと思う。

小委員会委員さん、他に付け加えることはありますか。

みなさんのご意見をまとめて、その中身を集約したのがこの答申だが、現状・課題・展開という形でまとめさせていただいた。意見でもあった、団塊の世代の中身をどうするかということが出ていたので、その内容を含めて、それぞれの項目に分けて、学び返しが大きな基点になっているが、学び返しの中のぶら下がる項目として団塊の世代の要素をどうするか選定して中身を検討させていただいた。この中身はみなさんがおっしゃっていた意見もあるし、私たち小委員会で、こういうことも入れた方がいいのではないかとということも含めて、繋がりを作ったので、みなさんに読んでいただき、その結果のご意見をいただきたいと思う。そういう形で全体の形をまとめたので、審議の方をよろしくお願ひしたい。

今みなさんのお手元にある形で、事務局からいただいたものをもう一回見直した

が、すべての意見で矛盾をした意見はなかったと思う。みなさんの意見はすべて繋がっているが、繋ぎ方がまだぎこちない所があるかと思うが、みなさんのお力で鉋をかけていただいて、読み込みやすいものにしていただけると、ありがたい。

➡ 「はじめに」を読み上げる。

今日始めての文面なので、大変だと思うが何か気づいた点はあるか。

2行目の「学んだことを」だが、生涯学習から学んだことだけではなく、「ひとりひとりの体験や学んだことを」等、体験やそういうものも学び返しのひとつだと前提があったような気がするので、入れた方がいいのではないか。

必ずやっといってもらわないと。芸術習ってないから先生できないという人がいる。学んだことしか返せないと思っている人が、けっこうたくさんいる。我々がボランティア養成講座をやったときにそういう意見がでた。

もう一度入れた言葉をお願いしたい。

はい。「一人一人の体験や学んだことを」。

その体験という言葉を入れるということによろしいか。

はい。

それでは、「はじめに」はよろしいか。また最終的に全体を通していただくことになります。字の間違い等あれば、お願いしたい。

3行目の「学び返しを提唱し、推進するとしている」というところで、公の文書で「推進するとしている」という表現を使うか。

府中市生涯学習推進計画の中で、そう言っているのだから、そういう表現にした。

では次に進めます。

➡ 「1 学び返し【現状】」を読み上げる。

学び返しの現状について、いかがでしょうか。

➡ 「はじめに」のところで、「第2次府中市生涯学習推進計画」(以下、推進計画という)となっているが、ここの1行目と、この後でも「推進計画」といっていたり、「計画」といっていたりするので、後でまとめて修正する。

「繋がれている」という言葉が引っかかかっていて、この主語は何なのか。受け継いで、世代で繋がれているのかと思ったが。「お雛子等の伝統行事も受け継がれている」で良いのでは。

皆さん、いかがでしょうか。

(一同了承)

そこでひとつ提案があるのだが、「お雛子等の伝統行事」のところで、府中市民としては、大国魂神社のくらやみ祭りは、外に対して非常に自慢できるお祭りだと思うが、この資料のどこにもその言葉が出てこない。そこで、「大国魂神社のくらやみ

祭りを頂点とするお囃子等」としたらおかしいか。

「くらやみ祭り」を入れても良いと思う。

「大国魂神社」というと固有名詞になってしまうので、「くらやみ祭りの」と入れたほうがいいのではないか。

そうですね。

もう一度復唱してください。

「地域の様々な行事でリーダーシップを発揮したり、くらやみ祭りを頂点とするお囃子等の伝統行事も受け継がれている。」

多くの地域で自治会やPTAとあるが、シルバーさんは入っていないが、どんな形で入れるのか。いろいろ独楽回し等の協力をしてもらっている。

コミュニティ協議会に含まれるのではないか。

ここにあるのは、無償で協力している団体なのではないか。シルバーさんはお金を貰って活動していると思う。そこが違うと思う。

わかりました。

今おっしゃったのはシルバー人材センターのことで、老人会のシルバーさんはすぐ協力してくれている。

コミ協の中にシルバー部会と文化部会等があり、シルバー部会の催し物のときは、結構リーダーシップを発揮して、老人会がやっている。

では、自治会の構成なのか。

自治会に入っているところもあるが、独立して府老連という団体もある。だが、そこから来ているわけではなく、自治会の老人会がコミ協に入っている。

コミュニティ協議会に老人クラブが構成されているのは確かだと思う。

自治会とコミ協が入っていたら、どちらかには入っているのではないか。入っていない老人会はあるのか。

15行目の「相談して親睦委員会をつくりスポーツ等で交流深める」のところで、「交流を深める」だと思う。

その文章の最後で、「ところもあると聞く。」は伝聞をしたようなので、「ところもある。」にしたほうが良いと思う。

(一同了承)

6行目の「利用は増えていく状況にある。」は、本当にあるのか。「と思われる。」はいらないか。

➡ 「今後も利用は増えていく状況にある。」と確定になってしまい、増えていく状況にあると推測するという意味で書いているので、「年々、利用は増加傾向にある。」にさせていただいたほうが良いと思う。

(一同了承)

➡ 「1 学び返し【課題】」を読み上げる。

今の中で気が付いたことはあるか。

2 ページの7行目「地域社会に戻る人たちも」とあるが、小委員会でもあったが、「地域に戻る」ということは、元々はいたのかということも考えられるので、何か良い言葉があれば。

八王子の方では「おとうさん、おかえりなさい」というのがある。

➡ 帰るとか戻るというよりも、例えば、「辞めた方に地域社会と関わりを深めよう」としたい人も」というふうにしたらどうか。

「地域に戻る」で通じる気もする。それとは別に「今後サラリーマンを辞めた後」を「退職後」にしたらもっと簡単になる。「退職後に地域社会に戻る人たちも」というと今まで単身赴任して戻ってくることを想定する人もいるだろうし、毎日家を出て夜遅く帰ってくる人が、昼間いるということも想定する人もいると思う。

サラリーマンだけではないので、職業も限定しない方がいいと思う。

そうすると「地域に戻る」でもいいような気がする。

「地域社会に関わる人たちの」と言ったほうが、「戻る」というと何もしない場合もある。

「地域デビュー」という言葉を使ってはどうか。「退職後に地域デビューしたい人たちも」というような形ではどうか。そうすると意味が限定されてくる。

「はじめに」のところの「地域活動への受け入れ態勢や、彼らが一歩踏み出すための動機付けをいかに構築するか」が今回の大きなテーマなので、先ほどの「関わりを持っていきたい」という文言が生きてくるかと思う。

「退職後、地域社会と関わり合いを持ちたい人たちも」ではどうか。

(一同了承)

その2行上「ぜひ学び返しを実践するため」の「ぜひ」はここにかかるのはおかしい気がする。「学び返しを実践するため、ぜひ地域の活動に」そこにかかるのではないか。

(一同了承)

(休憩)

最初の2行が課題になっていて、それが最初の表題になっているので、文章の最後、「結」にきたらどうかと思うがいかがか。

今おっしゃっている2行は起承転結の「結」ではないと思う。これはあくまでも

現状で、そういう団塊の世代だからこそ、生涯学習や学び返しを気にする必要があるのではないかということで、まず掲げた。

その1行目「生涯学習の中心」というのが、やや曖昧な気がしたので、生涯学習のターゲットと考えるのか、あるいは団塊の世代自らが活動的にやっていくのか、どちらの面が主に考えているのか。両方なのか。

府中市の場合、まさに「学び返し」があるので両方だと思う。

その場合、「生涯学習への参加や実践活動の中心と」というのを付け加えるのはいかがか。

(一同了承)

3ページの 学校と地域の連携の下から2行目「スポーツを通して地域の」は、スポーツだけでなく、伝統文化等、文化面も入れたほうが良いと思う。

(一同了承)

その下の「しつけ教育」という言葉は、まとまった単語があるのか。

「しつけ教育」という言葉ですね。

「しつけ教育」という言葉はないが、意味的にはこういう内容だと思う。

これは「しつけ」だけにしてはどうか。「しつけ」という意味で考えていた。

伝統文化で「しつけ」はたくさんあるのか。

あります。茶道でも何でも。

まずは、人間関係ですよね。人間関係の中にルールもあるし、文化的な要素を受け継ぐというものもあるし、そういうことを言っていると思う。一般的に言えば、健全育成と言える。

「教育(しつけ)」にしたらどうか。

(一同了承)

職場体験は中学校だけですよね。小学校はないですよね。中学校2年生あたりがやっていることなので、「中学生の」と入れた方が良いと思う。これは府中市だけでなく全国的に行政の事業としてやっている。

「府中市では」はとった方がいいか。

「府中市でも」にしたらどうか。

全国的にやっているなら「府中市でも、学校と地域が協力し、中学生の職場体験学習等が盛んに行われている。」ではどうか。

(一同了承)

➡ 「1 学び返し【展開】」を読み上げる。

の2行目「ファシリテーター」という言葉がでてきますが、この説明が前にも後ろにもないので、この文章は「地域の担い手、いわゆるファシリテーター」にし

たらどうか。

- ➡ 「いわゆるファシリテーター」は一般的な使い方になってしまうので、「いわゆる」という認識がまだ一般にはないので、府中市でいうところのファシリテーターの役割を言っているので、このままの方が納まりがいいと思う。

このままで意味がわかるか。

- ➡ 横文字等の分かりづらい言葉については、別途注釈を付けて説明する。

【展開】 の3つ目の中点「楽しみながら、学習を通じて将来の展望をひらく生涯学習のすすめ」はいかがか。

(一同了承)

その次の中点「人から人、グループからグループへ」にしないとおかしい。

(一同了承)

その次の中点(まつり等)の括弧をはずして、「まつり等楽しいイベントを通して」にしてはどうか。

(一同了承)

その次の中点も言葉を入れ替えたらすんなりいくのではないか。「共同作業する中で、大人と大人との間のコミュニケーション作り」ではどうか。

(一同了承)

- ➡ 「2 居場所作り【現状】【課題】【展開】」を読み上げる。

3ページ【展開】、4ページ【展開】に括弧されてプロとあるが、プロとアマチュアをあまり分けないほうがいいと思う。前にも関係しているが、文化省の方針で、生涯学習は楽しいとなっているが、やっている方の中には、そんなに楽しいと思わない人もいるのではないか。楽しいことばかりではないし、いろいろな仕事もしないといけないと思う。自分がそう感じられないのに、楽しいと言っても、ちょっと合わないのではないか。その前の「しつけ」のときもそう感じたが、「しつけ」はそんな楽しいものではないので、しかも上から下へ教え込むような感じがする。こういう言葉は、おそらく道徳だとよくある言葉だと思う。「しつけ」は楽しくはないと私は思う。プロとアマチュアも分けた方がわかり易いと思うが、あまり分けない方がいいのではないか。

今の3つのことについて、最近、実際に私どもが地域で生涯学習を体験している人たちを見ると、まさに今おっしゃったことは間違いである。と言いますのは、皆さん、ものすごい楽しいらしい。文化センターの講座や体験に行ったり、自治会でも一生懸命やっている。1日中プログラムでいっぱいという人が大勢いる。それから「しつけ」について、最近の子どもたちは親の言う事に聞く耳を持たないので、私の町内ではジュニアベースの母親を集めて、講師たちと意見の調整をやっ

たことがある。講師たちとしては、絶対にやってはいけないこと、それをやられると他の子ども達の迷惑になったり、怪我人ができるかもしれないから、叱りたいが叱っていいか分からなかった。そして、私たちと話した結果、母親たちは家で叱っても彼らは分かってくれないので、先生たちどうぞやってください、ということになった。これは一つのしつけの連携でしかないが、しつけに関して、あまりにもお互いが遠慮しすぎていると思う。

学校でもできない。中学校のバレー部でも親から一札とっておかないとできないので、だいたいの学校ではやらないことにしている

やるべきだと思う。やらないのは間違いだと思う。

こちらの意見としてはそうだが、それをどうやるか。

先程おっしゃったような「子どもにとって、しつけは楽しいものではない」ということですが、生涯学習は子どもだけのものではないので、大人が子どもをしつけることも必要ということで、子どもはそれを楽しいとか楽しくないとかではなく、必要ではないかということではないか。私は全然、損をしているとは思わない。

ただ、おっしゃっていた「プロ」に括弧を付けるか、付けないかは問題だと思う。私は専門家という言葉も少し出すぎるような感じがする。

その参加者の中からプロになられてもいいのか。

もちろん。

しかし、3ページ【展開】には「生涯学習はプロになる道ではなく」とある。

わさびやしいたけのプロになっても良いという人はいると思う。私が言っているのは、括弧を付けることで意味があるのだと思うが、整合性の問題です。教えたい方がたくさんいても、それは社会教育として意味を成さないで、受ける方も楽しくない。成立しない。これが生きがいになって、学び返しになると思うが、受ける人が逃げて捕まえて怒っても、これは社会教育になると思わない。家庭教育の分野だし、むしろマイナス効果になってしまうのではないか。楽しいと言っている割には、子どもだけではなく、教える方も本当に楽しいのか。これはやっている方をみていると少し疑問で、かなり犠牲があると思う。テニス愛好会でもテニスをやっているのは楽しくても、コートを順番に取りにいった寒い環境の中で大変だと思う。全部好きな時に、好きな事をやれるような環境ではない。

そういう事を言ったら何でもそうになってしまう。

文化省の方針だが、それを全部受ける必要はないので、楽しんでいる部分では良いと思う。

社会教育をいうのは、楽しみながらも・・・。

そうです。楽しくないといけない。もし指導する方では、楽しくないこともあり

ます、ということをごどこかに入れれば良いのでは。

おっしゃる趣旨もわかるが、現場で体験教室ということで農業祭りが郷土の森であった。大根・さつまいも等を農家の方が教えて、それを農業祭りで自分たちが作ったもの売って、喜んでいる。それを注意をしない、ということですが、文化センターでは職員も、いけないことはいけないと一生懸命注意している。みんながそういうふう一言かける等、思ったら注意しないといけない。

この後は、時間の関係もあるので、各自で読んでいただき、訂正したいところは事務局に戻していただきたい。

- ➡ 今日いただいた訂正等を事務局で直し送付する。今日、審議できなかった部分に関しては、訂正したものを提出していただきたい。それを反映させたものを次回配布し、再度ご確認いただきたい。

## 7 その他

- (1) 第5ブロック研修会（勉強会・懇親会）の出欠について。
- (2) 次回開催日程について、以下の日程で開催する事が決定した。

全体会：2月22日（月）午後1時30分～3時30分

府中市生涯学習センター 会議室